ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

研究発表会　次第

日時：令和３年 11 月８日（月）

９時３０分～１２時３０分

場所：県立西はりま特別支援学校

１　開　　会

開会あいさつ

２　事業説明

３　授業参観

「視線入力支援装置を活用した自立活動の取組」

発表　県立西はりま特別支援学校　　教諭　藤井　渓太

４　報　　告

「児童生徒の実態に応じた ICT を活用した自立活動の取組事例」

発表　県立西はりま特別支援学校　　教諭　藤井　渓太

５　研究討議

テーマ「ICT を効果的に活用した自立活動に取組むための児童生徒の実態把握について」

司会：関西学院大学教授　教授　　丹羽　登

パネリスト：兵庫教育大学院　　准教授 小川　修史

〈研究指定校〉

県立神戸聴覚特別支援学校　　教諭　服部　泰子

県立姫路しらさぎ特別支援学校　教諭　竹中　正彦

県立西はりま特別支援学校　　教諭　藤井　渓太

６　閉　　会

(1)　事務連絡

(2)　閉会あいさつ

令和３年度ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業研究発表会
開催要項

○テーマ

「ICTを効果的に活用した自立活動に取り組むための児童生徒の実態把握について」

１　趣　旨

本県では、今年度からICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業を文部科学省の委託を受け、実施している。本事業ではICT機器の効果的な活用を進める中で、６校の研究校を指定し、遠隔システムを利用した障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための自立活動の指導及び遠隔による通級による指導について研究し、障害のある児童生徒の学びとICT等を効果的に活用した自立活動の指導に関する啓発及び教員のさらなる資質向上を目指し、取組んでいる。

本研究発表会では、ICTを活用した自立活動の実践発表、研究協議等を行うことで、各校での効果的な実施に資することを目的とする。

２　日　時

令和３年11月８日（月）９:30～12:30（受付９:15～）

３　会　場

・兵庫県立西はりま特別支援学校
　〒679-5165　たつの市新宮町光都１－３－１
　TEL 0791-59-8277

・テレビ会議システムでの開催

４　対　象

〈会場及びテレビ会議システムでの参加〉
・ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業検討会委員
・令和３年度ICTを活用した自立活動の調査研究事業研究指定校関係者

〈テレビ会議システムでの参加〉
・教育事務所特別支援教育担当者等（１名）
・各市町組合教育委員会担当者、小中学校特別支援学級担当者、特別支援教育コーディネーター等（２名以内）
・特別支援学校（１名）

５　日　程

9:30～9:40　　開会行事

9:40～10:00　事業説明

10:00～10:30　授業参観（テレビ会議システムでのライブ中継を予定）
「視線入力支援装置を活用した自立活動の取組」

10:30～11:10　報　　告　　県立西はりま特別支援学校
「児童生徒の実態に応じたICTを活用した自立活動の取組事例」

11:10～11:20　休　　憩

11:20～12:10　研究討議
テ　ー　マ「ICTを効果的に活用した自立活動に取組むための児童生徒の実態把握について（仮）」

パネリスト：関西学院大学教授　教授　丹羽　登
兵庫教育大学院　准教授　小川　修史

〈研究指定校〉
県立神戸聴覚特別支援学校
県立姫路しらさぎ特別支援学校
県立西はりま特別支援学校

12:10～12:20　指導助言　　関西学院大学教授　教授　丹羽　登
兵庫教育大学院　准教授　小川　修史

12:20～12:30　閉会行事

６　参加申し込み

出席者名簿を10月27日（水）までに電子メールにてご返信ください。

７　その他

〈会場での参加の場合〉
- 靴袋、上履き等を持参ください。
- 名札とマスクの着用をお願いします。また、当日に発熱や咳等の症状がある場合は会場への参加をご遠慮ください。

〈テレビ会議システムでの参加〉
- 別紙参照

P3,P4 は、参加者名簿のため削除

ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

令和3年11月8日（月）

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課

1

内容

1　国の動向

2　兵庫県のこれまでの取組

（1）兵庫県特別支援教育第三次推進計画

（2）障害種に応じた支援機器の導入

（3）コロナ禍におけるICT機器の活用について

3　ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

2

Ⅰ 国の動向
特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

「各教科等の指導に当たっては、児童又は生徒がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、その基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実する。

3

2 兵庫県のこれまでの取組
（1）兵庫県特別支援教育第三次推進計画

－平成31年度から令和5年度の5年間－

兵庫県がめざす特別支援教育 → 共生社会の実現

Ⅰ 連続性のある多様な学びの場における教育の充実

～すべての学校園で取り組みつなぐ特別支援教育～（縦の連携）

Ⅱ 連携による切れ目ない一貫した相談・支援体制の充実

～早期から卒業後へ支えつながる特別支援教育～（横の連携）

キーワード
「縦横(ﾀﾃﾖｺ)連携」

4

2 兵庫県のこれまでの取組
(2)障害種に応じた支援機器の導入

〈聴覚障害のある児童生徒への支援〉
平成30･31年度（文科省委託事業）
　特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業
（手話等のコミュニケーションツールを活用した
　教職員等の資質向上に関する講習会）
　→「音声認識ソフト活用にむけた調査研究」

音声ソフトを活用した授業（県立姫路聴覚特別支援学校）

〈肢体不自由のある児童生徒への支援〉
<u>視線入力による意思伝達装置の導入</u>
・視線により選んだ文字をパソコン等に入力する装置を活用し、文章作成や読み上げを行うなど、意思の伝達を図る。

<u>筋電位スイッチ</u>
・奥歯をかみしめる時のこめかみの筋電位を用いて、自ら車いすやパソコン操作できるようになるなど、教育活動の参加が進む。

5

2 兵庫県のこれまでの取組
(3) コロナ禍におけるICT機器の活用について

ICT機器	整備内容
大型支援装置	全校27校の全普通教室に配備
学習アプリ	22校の3,000人に「Classi」を、 3校の6人へ「ｽﾀﾃｨｻﾌﾟﾘ」を配備 (特別支援学校の全児童生徒の78.3%が利用)
入出力支援装置	18校に点字ディスプレイ、視線入力装置、 ボタンマウス、スイッチインターフェース等導入
タブレット端末	経済支援を要する家庭にLTE機能付きの タブレット端末を貸与

6

2 兵庫県のこれまでの取組
（3）コロナ禍におけるICT機器の活用について

【緊急事態宣言における一斉臨時休業中】
- YouTubeに動画教材の配信。
- Classi、スタディサプリで学習動画を配信、アンケートやWebテストの実施。
- Zoom、Skypeの機能を使用した双方向でのやりとり。

【テレビ会議システムの利用】
- 「入学式」「卒業式」「始業式」などを各教室に配信。
- 他校との交流及び共同学習の実施。
- 療養している生徒への動画メッセージの配信。

テレビ会議システムでの「終業式」
県立姫路特別支援学校

7

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業【趣旨】

○事業の目指すこと
遠隔システムを利用して児童生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善するための指導の在り方を調査研究する。

○事業内容
- ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議（年3回）
- ICT活用研究発表会の実施（年1回）
- 研究指定校での取組

8

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業【研究指定校】

知的障害	県立姫路しらさぎ特別支援学校
肢体不自由	県立西はりま特別支援学校
難聴通級	県立豊岡聴覚 / 県立神戸聴覚 / 県立姫路聴覚
LD・ADHD等通級	県立村岡高等学校

9

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

知的障害　遠隔システム：Google Classroom 、GoogleMeet

県立姫路しらさぎ特別支援学校

対象児童生徒：高等部（1名）、高等部（9名）

【研究内容】
・不登校傾向の生徒が、遠隔システムを活用し、別室での授業参加の在り方。
・自立活動の遠隔による実施を含めた指導及び評価の在り方。

クイズ出題グループの様子

授業の教室内の様子

10

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

難聴通級　遠隔システム：Zoom

県立豊岡聴覚特別支援学校

対象児童生徒：小5（1名）、中2（1名）

【研究内容】
・通級指導と通級指導の間に遠隔の指導を設定し、聞こえの確認や生活の聞き取りを実施し、遠隔システムを活用した指導の効果を検証する。
・対面と遠隔システムを活用した指導とどのように組み合わせると効果的か検証する。

【取組の様子】
・通級指導と通級指導の間に設けた遠隔システムでの指導の中で自分の困っていることを話す場面があり、早期に対応することができた。
・遠隔システムの操作に生徒が関心をもっていて操作の設定をする中でコミュニケーションを図る。

11

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

難聴通級　遠隔システム：Zoom、GoogleMeet

県立豊岡聴覚特別支援学校

対象児童生徒：小5（1名）、中2（1名）

「ロジャーの準備」について

「他校での通信テスト確認」

12

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

難聴通級　遠隔システム：Zoom、GoogleMeet

県立神戸聴覚特別支援学校

対象児童生徒：中１（2名）、中2（１名）、中3（2名）

【研究内容】
・対面指導での単語・文の聞き取り・漢字でしりとりを実施し、遠隔の指導で対面指導でのやりとりの理解や応答の状態を確認し、ICTを活用した学習の効果を検証する。
・遠隔システムを活用し、必要な情報保障についての指導・支援及び評価の在り方について。

遠隔システムをするための環境を整える

13

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

難聴通級　遠隔システム：Zoom、GoogleMeet

県立姫路聴覚特別支援学校

対象児童生徒：中3（2名）

【研究内容】
・通級による指導で学んだ学習内容を遠隔の指導で定着を確認し、ICTを活用した学習の効果を検証する。

【取組の様子】
・担任が遠隔システムを活用した学習に入り、通級による指導場面を見る機会になった。
・遠隔システムやICT機器とホワイトボードなどを組合わせて学習に取組む。
・通級による指導で学んだ手話の定着を確認する。

14

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

難聴通級　遠隔システム：Zoom、GoogleMeet

県立姫路聴覚特別支援学校

対象児童生徒：中3（2名）

ホワイトボードの活用

映り方の調整

15

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

LD・ADHD等通級　遠隔システム：ZoomやGoogleMeet等

県立村岡高等学校

対象生徒：高1（1名）、高3（1名）

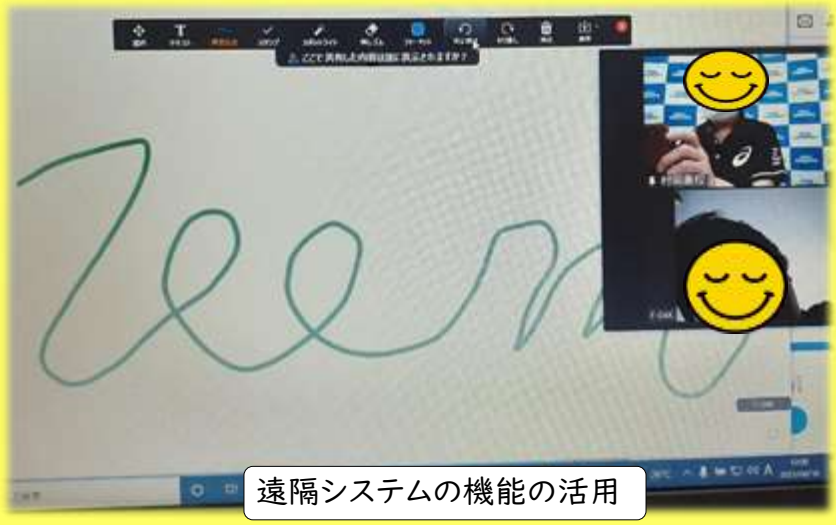
【研究内容】
・下宿生が帰省した際のICTの効果的な活用の在り方を検証する。
・遠隔の指導でのトークタイムや画面練習を行い、ICTを活用した自立活動の指導を検証する。

【取組の様子】
・校内で遠隔システムを活用した授業を行い、遠隔システムの使用方法などを確認する。
・遠隔システムで顔出しに抵抗があったが、ホワイトボードの機能を活用することで、少し、慣れて参加することができた。

16

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

LD･ADHD等通級　県立村岡高等学校



遠隔システムの機能の活用

17

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

【スケジュール】

- 4月 ･各研究指定校との打合せ
- 5月 ･研究計画書作成
- 6月 ･第1回検討会議
- 6月・8月 ･自立活動リーダー育成講座
- 10月 ･第2回検討会議
- 11月 ･ICT活用研究発表会
- 1月 ･今年度のまとめを作成
- 2月 ･第3回検討会議
- 3月 ･今年度のまとめを作成

18

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 研究発表会

〇テーマ「ICTを効果的に活用した自立活動に取組むための児童生徒の実態把握について」

〇発表内容　授業参観「視線入力支援装置を活用した自立活動の取組」
報　　告「児童生徒の実態に応じたICTを活用した自立活動の取組事例」

〇研究討議　「ICTを効果的に活用した自立活動に取組むための児童生徒の実態把握について」

19

令和3年度ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方　研究発表

県立西はりま特別支援学校

発表の流れ

●昨年度の取り組みについて

●視線入力装置をつかった授業の様子（LIVE）

●ICTを活用した自立活動の取組事例の紹介

生徒の実態

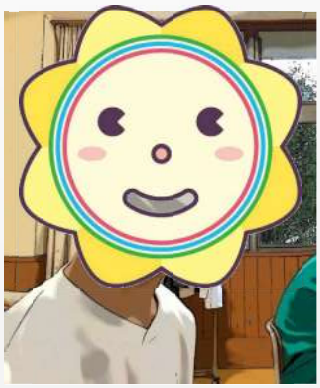
●余暇・・・YOUTUBEをみること。ダンス。

●好きな漫画・・・鬼滅の刃

●S-M社会生活能力検査・・・2歳2カ月
※コミュ 自己統制だけ見ると6歳程度

●身体障害・・・副腎白質ジストロフィーに伴う筋緊張から、身体や視線をうまく動かすことが難しい。

●新しいことに挑戦しようとする気持ちが高い



生徒の実態

●個別の教育支援計画（本人保護者の願い）・・・

・介助が必要であるが、自分でできそうなことは自分でできるようになってほしい。

・これまで学習してきたことを、日常生活でも生かせるようになる。

⇨ ICT機器を使った学習と日常生活への応用

キャリブレーション

●「パソコンを見て」という声かけでは、顔を正面に向けることが難しかった。横目でも「パソコンを見ている」

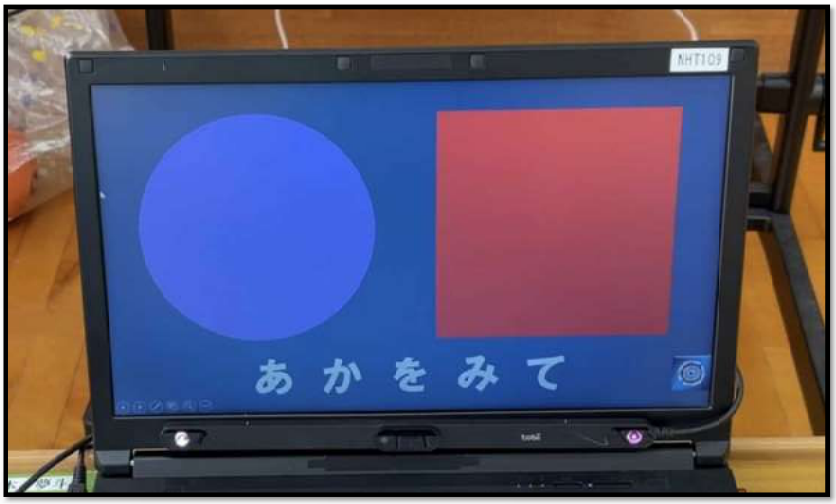
キャリブレーション

●頭の動きを手でサポートすると、何度かの失敗ののちキャリブレーションを行うことができた。

抽出の指導で
キャリブレーションに
約30分かかりました。

マウスポインタの操作

●PowerPointを使用し、視線入力で行える2択問題を制作した。



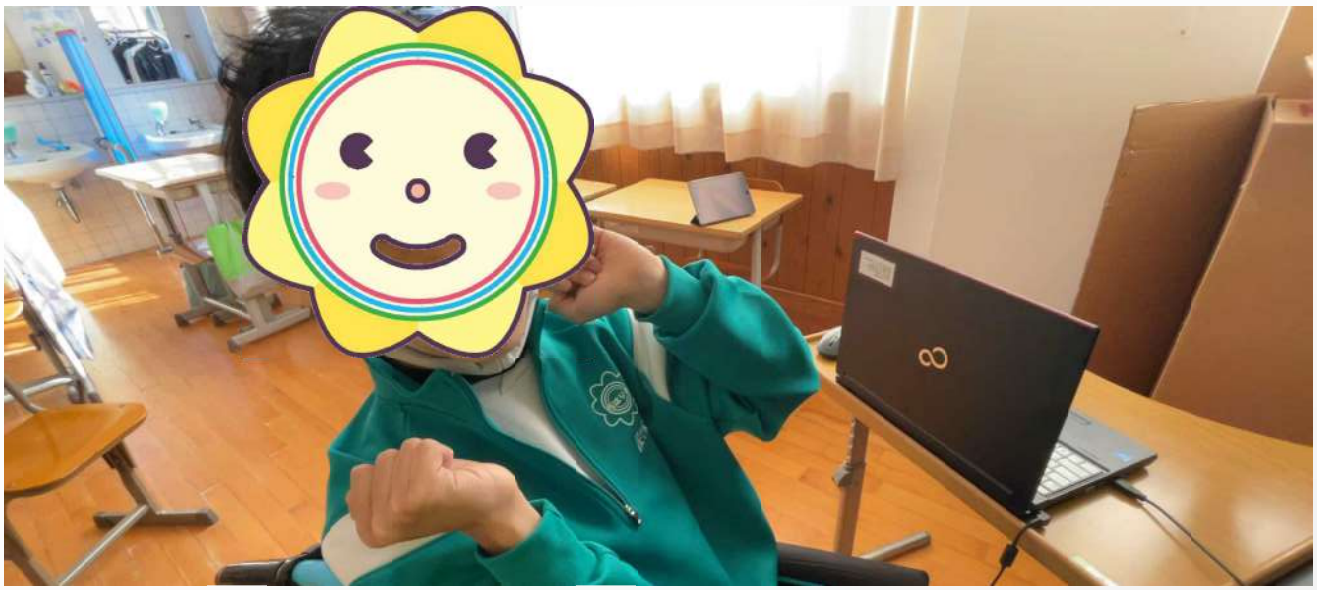
ハイパーリンク機能の活用

マウスポインタの操作

●画面上の問題は認識できているが、クリック入力となる時間一点を注視することは難しかった。

●クリックの為の注視時間を短くすると、誤答が増えた。

本人の感想



昨年度の取り組みから得た成果と課題

成果：自分で教材を操作するということで意欲の向上につながった。
　　：生徒の視線の動きを客観的に見ることができた。（教材作成のヒント）
課題：座位のまま視線入力装置を使用していたため、筋緊張が起こり、視線がぶれていた可能性がある。

→トレーニングのような活用ではなく、はじめは本人が楽しめるような学習やソフトウェアを使うところから始める方が良い。

本時の授業について

●本人の気持ち
「miyasukuKeyboard」を使えば文字入力もできるため、自分の知らないことをインターネットで検索をしたり、YouTubeで自分の見たい動画を好きなときに検索して見れるようになりたい。という思いがありました。

●本時までの取り組み
今年度は、より本人がリラックスできる姿勢を探し、不随意運動なくマウス操作や文字入力ができないか調査研究をしています。

本時の授業について

前時までの様子

本時の授業について

本時は抽出の自立活動。
前時までの取り組みから、本人がリラックスできる姿勢と機器の設置場所を見つけることができた。
課題・・・その日の体調によって見やすい画面の位置が微妙に変わる。

操作しやすい姿勢等が見つかれば、クラス活動で視線入力を用いたクイズの出題者や昨年度難しかった視線のキャリブレーションに挑戦する予定。

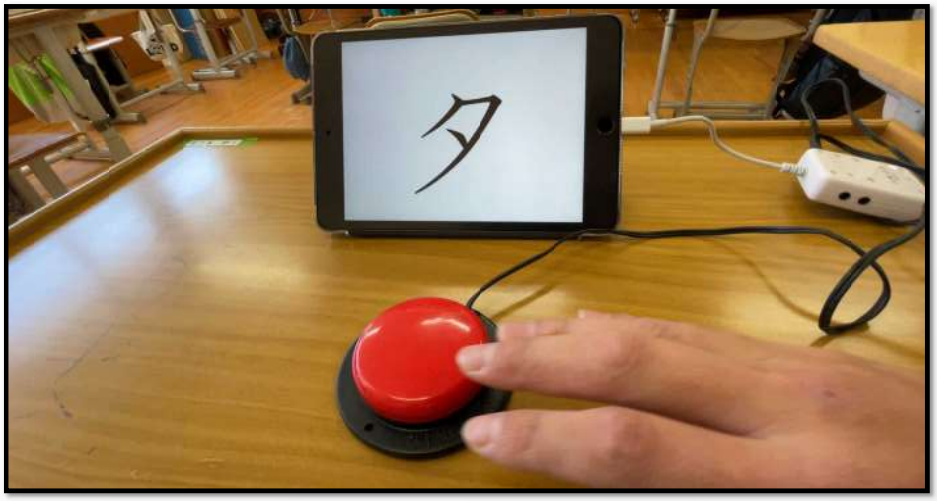
映像を外部出力し、アームで固定することで、柔軟に位置を調整できるようにした。

児童生徒の実態に応じた
ICTを活用した自立活動の取組事例

県立西はりま特別支援学校

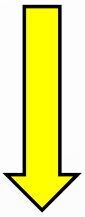
外部スイッチでの操作

アクセシビリティ機能のスイッチコントロールと専用機器を接続することで、
外部のスイッチを使ってiPadを操作できます。



外部スイッチでの操作

生徒の課題や願い
・色々なジャンルの絵本に触れる。
・自分で本をめくることができない。



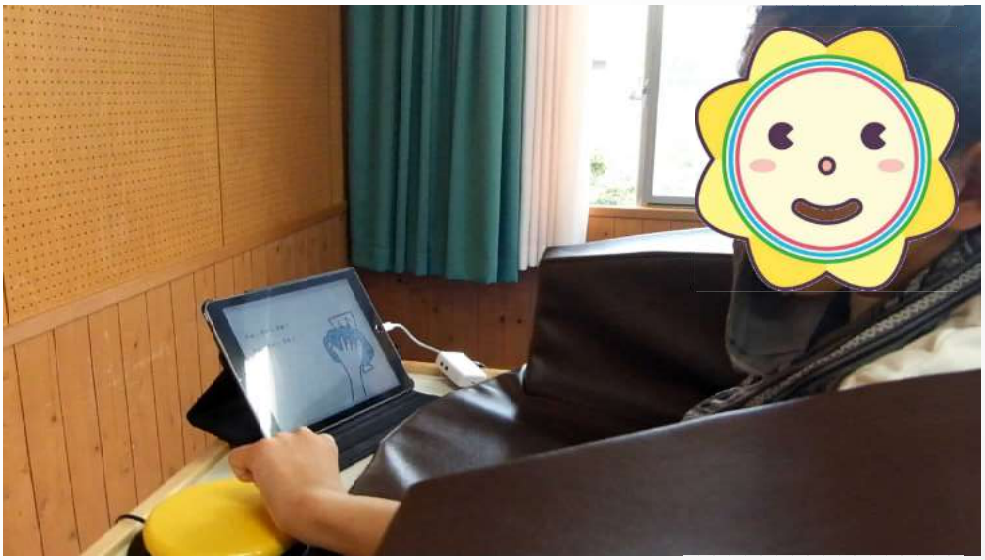
目標
・自分でページをめくり、たくさんの絵本に触れる。

外部スイッチでの操作

目標
・自分でページをめくり、たくさんの絵本に触れる。

＜身体の動き＞
・手指を繊細に動かすことが難しく、自分でページをめくることは難しい。
・スムーズに文字を読むことは難しい。

外部スイッチでの操作

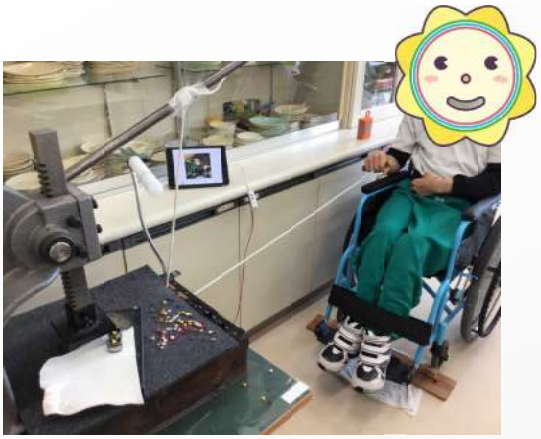


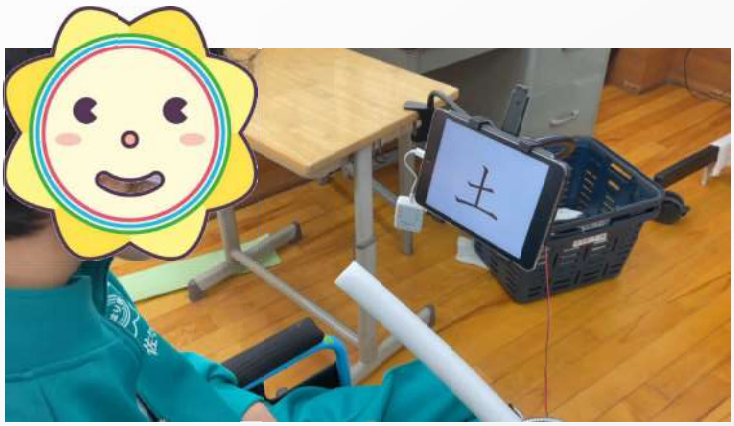
外部スイッチでの操作

スイッチを押すと絵本のページがめくれる様子を楽しみ、笑顔で学習に取り組むことができた。

外部スイッチでの操作：その他の活用

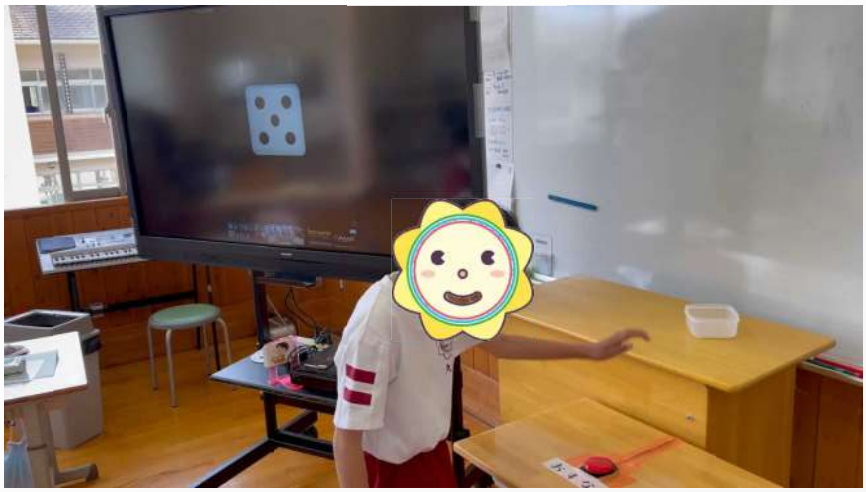
道具を操作するとスイッチが押され、アニメの必殺技が再生される。
水の呼吸で革の型抜き作業
JBスイッチより、棒形状のほうが押しやすいこともある。





外部スイッチでの操作：その他

ボタンを押してサイコロを振る。
肢体不自由の有無関係なく、全員が使いやすいツール。



・順番を守る
・●を数えやすい
・不要な操作の軽減

活用の工夫：アクセシビリティの調整

スイッチの種類とスイッチの安定化

保持時間の継続：
一瞬の誤タッチを無効化

繰り返しを無視：
連続した入力を無効化

生活単元学習：コップを洗おう

生徒の課題

・歯磨きに使うコップの汚れに気づくことができず、細部まで汚れを洗い落とすことができない。

目標

・コップ全体を見て、汚れに気づくことができる。

・隅々まで丁寧に洗うことができる。

生活単元学習：コップを洗おう

目標
・コップ全体を見て、汚れに気づくことができる。
・隅々まで丁寧に洗うことができる。

＜心理期な安定＞
・手順がわからず、先へ進めない。
・道具の扱い方がわからない。
＜身体の動き＞
・コップを動かして細部を見ることが難しい。
＜健康の保持＞
・コップを洗うことが習慣化されていない。
・綺麗に洗うことの必要性を感じていない。

生活単元学習：コップを洗おう

生徒が実際に見る世界と同じ映像で手段を伝えることで、手本の映像と自分の手先の動きをマッチングさせやすくなりました。

衝動的な行動がある生徒に対して

生徒の課題
・興味のあることに対して、衝動的に行動（向かう）してしまうため、常に教師の見守りが必要である。
・自分が納得できるまで、活動を終えることができない。

目標
・気になることがあっても、気持ちを切り替えたり周囲の状況を見て行動することができる。
・時間や指示を聞いて活動を終えたり変更したりすることができる。

衝動的な行動がある生徒に対して

目標
・気になることがあっても、気持ちを切り替えたり周囲の状況を見て行動することができる。
・時間や指示を聞いて活動を終えたり変更したりすることができる。

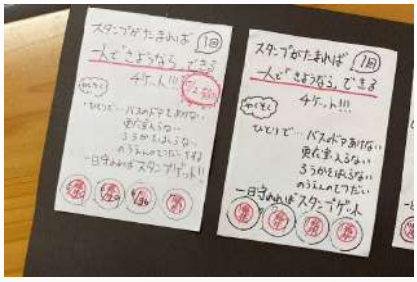
＜心理的な安定＞
・自分の気持（衝動）を抑える方法がわからない。
・良くない行動があった後、自分の行動を振り返り、後悔することがある。
＜環境の把握＞
・時間を理解しているが、活動に集中していると時計を見ることが難しい。

衝動的な行動がある生徒に対して

・余暇にiPadで好きな画像や動画を見るので、簡単な絵カード交換を行った。
→iPadを使うときはカードがいるよ。
→やりたい時も、一呼吸。

衝動的な行動がある生徒に対して

・余暇にiPadで好きな画像や動画を見るので、簡単な絵カード交換を行った。
→iPadを使うときはカードがいるよ。
→やりたい時も、一呼吸。



・iPadの交換から、トークンへ。
・iPadを使う際にルールを決めたことで、次のルール決めへスムーズに移行出来た。
・iPadを終わるときは教師が声掛け・・・

自立活動：心理的な安定、環境の把握

リマインダーアプリを設定し、定時になると次の授業や活動が表示されるように設定した。

衝動的な行動がある生徒に対して

終わりはリマインダーの通知を見て、自分で判断できるようになりました。
通知は平日に繰り返し設定しているため、毎回教師が伝えたり、タイマーを設定する必要はなく、教師が時間を忘れていても自分で終わりを判断してくれています。

活用の工夫:アプリの詳細設定

リマインダー・・・通知スタイルの変更と繰り返しの設定

バナースタイルを「持続的」にすると、触って確認するまで画面に表示され続ける。通知を繰り返されるように。

入学時の不安軽減や人間関係の形成に

生徒の課題

・地域の小学校から、中学部への入学のため知り合いが少なく、これからの学校生活に不安がある。

・どんな話をしてよいかわからない。

目標

・安心して学校生活を送ることができる。

入学時の不安軽減や人間関係の形成に

目標
・安心して学校生活を送ることができる。

⇩

＜心理的な安定＞
・慣れない環境に不安がある。
＜人間関係の形成＞
・新しく出会った人とどんな話題で話をしていよいかわからない。

⇩

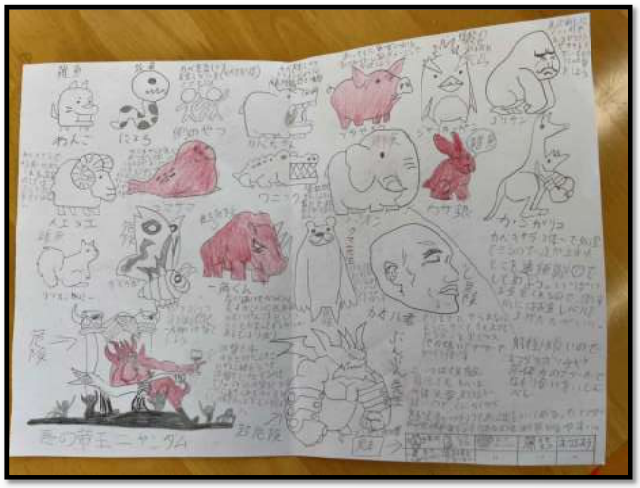
生徒たちの興味があるものを話題にしようと考えた。

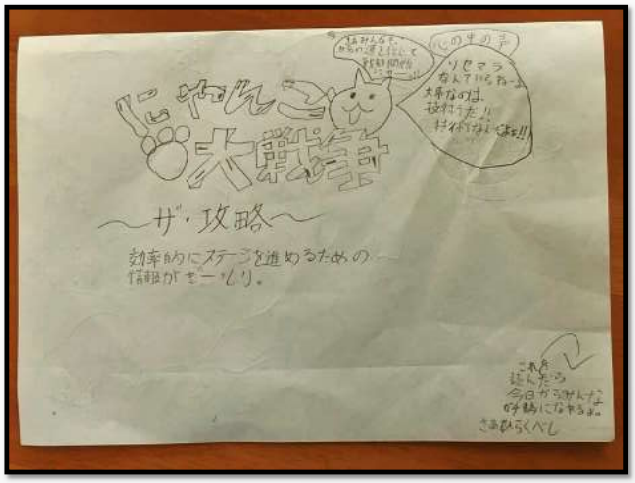
入学時の不安軽減や人間関係の形成に

生徒がやっているスマホのゲームをインストールして、共通の話題として話をした。
「先生もやってみるから教えてよ。」

入学時の不安軽減や人間関係の形成に

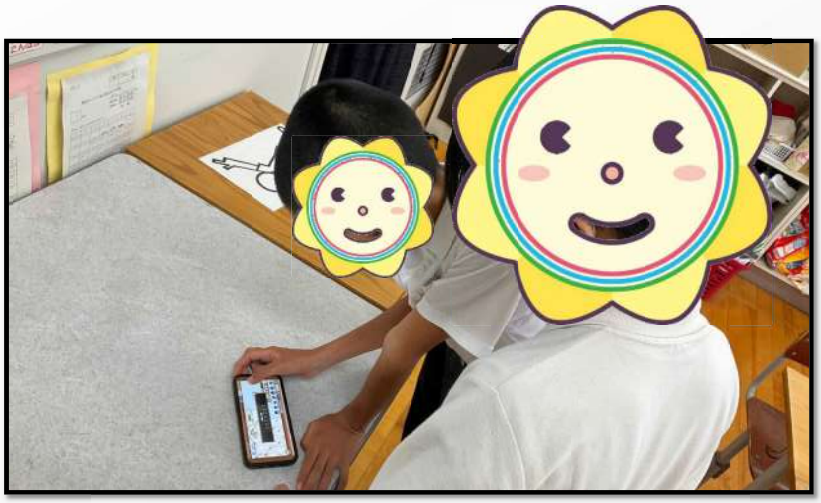
次の週に自作の攻略本を作ってくれました。





入学時の不安軽減や人間関係の形成に

「ゲームの話をしていいんだ」「あいつ、にゃんこ大戦争やってるのか」という会話から子どもたち同士のコミュニケーションが広がりました。



総合学習：西播磨地域の新聞づくり

生徒の課題
・生まれ育った地域以外の市町に馴染みがない。
・情報機器を活用して調べ物をしたり、学習に取り組んだりする機会が少ない。
・友達との協力や気持ちを伝える活動になると消極的になったり、適切な声量での会話や丁寧な文字を書いたりすることに課題がある。

⇩

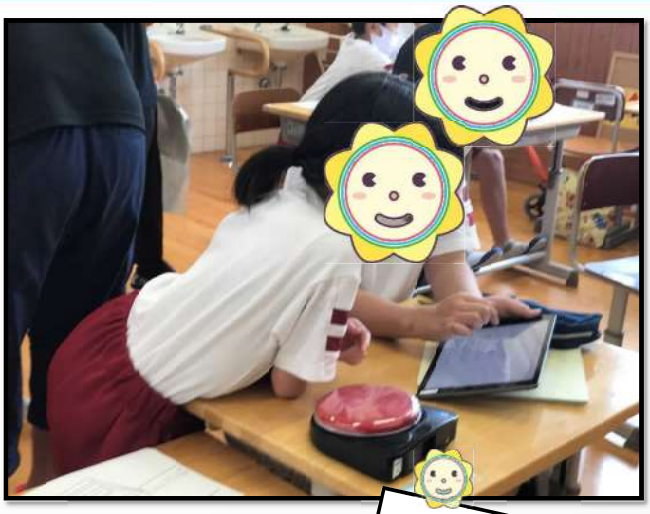
目標
・協力して新聞作成に取り組み、地場産品などを知る。
・必要な情報を適切に相手に伝えることができる。

総合学習：西播磨地域の新聞づくり

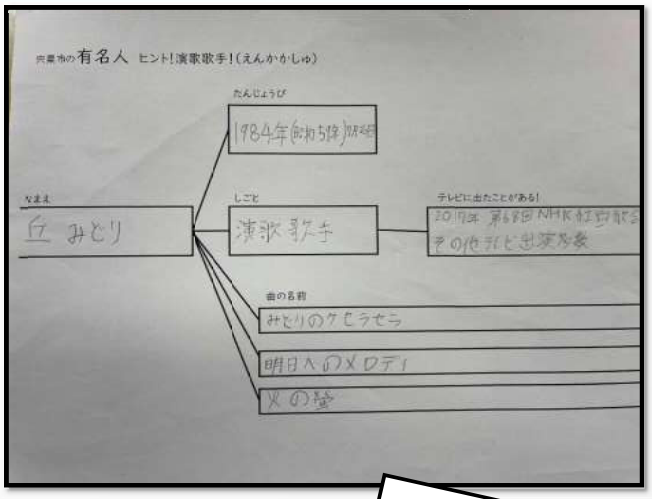
目標
・協力して新聞作成に取り組み、地場産品などを知る。
・必要な情報を適切に相手に伝えることができる。

＜コミュニケーション＞
・発問の際の表現方法がわからない。
・相手の立場に立って書字することが難しい。
＜人間関係の形成＞
・友達と協力して活動することが難しい。
＜心理的な安定＞
・何を調べていいかわからない。

総合学習：西播磨地域の新聞づくり



質問用のVOCA



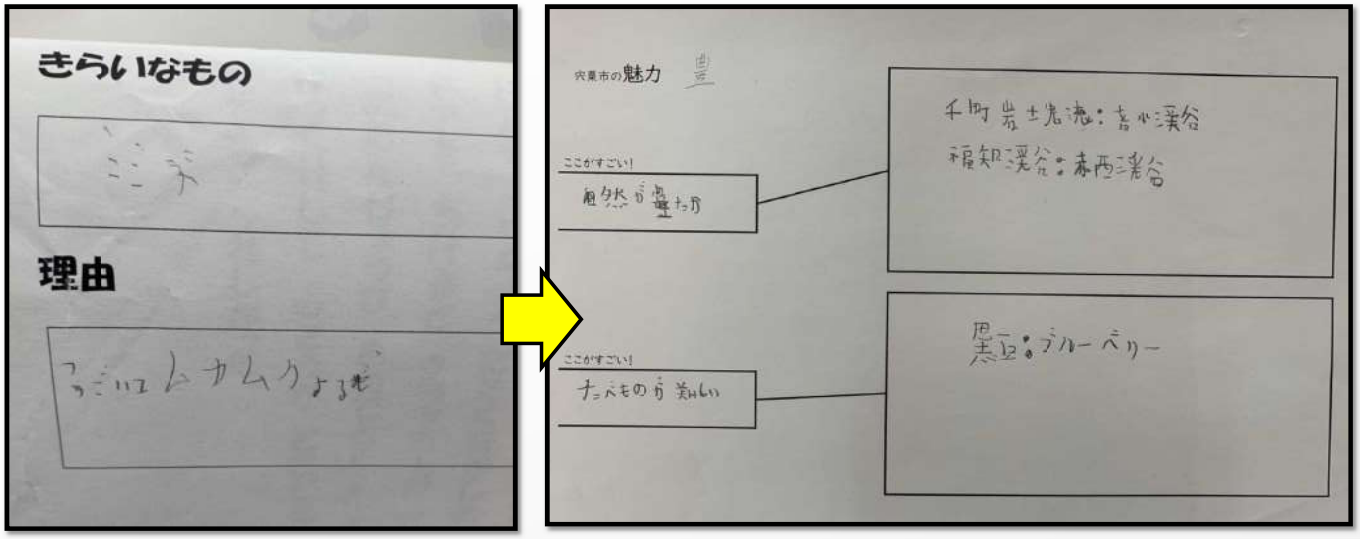
穴埋め式のプリントで相談しつつ、検索に自信が持てるように

総合学習：西播磨地域の新聞づくり

配布したプリントを電子黒板に写し、良い書き方と悪い書き方、プリントの活用方法を事前に伝える。

総合学習：西播磨地域の新聞づくり

読みやすい字を意識して書くことができた。



Web会議を通して別室で授業参加

生徒の課題

・学習に取り組む意欲は高く、授業を受けたい気持ちは強いが、集団参加が苦手で、教室の中で授業が受けにくい。

目標

・別教室で課題を受け取り、学習に参加することができる。

でも、教室で友達が
どんな様子かきになる。

離席や、廊下をウロウロしてしまう。

Web会議を通して別室で授業参加

目標
・教室で課題を受け取り、学習に参加することができる。

でも、教室で友達が
どんな様子かきになる。

⇨ 離席や、廊下をウロウロしてしまう。

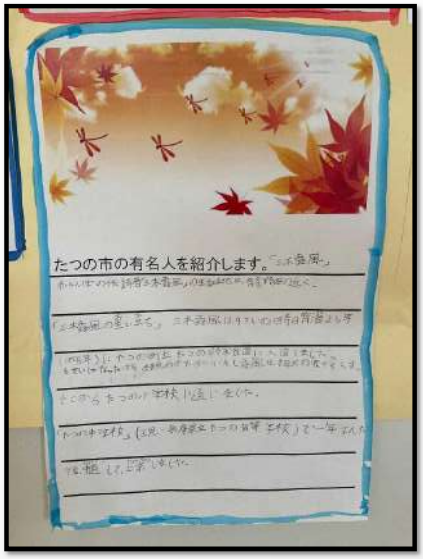
＜心理的な安定＞
・集団に所属したいが、6人以上の集団は苦手である。
・何をしているか気になるから教室前を歩く。
・みんなと同じことをしたいが、上記理由から参加しにくい。

Web会議を通して別室で授業参加

本人との話し合い
自分の顔は見られたくない→カメラは最後列で生徒には見せない。
音声は聞かれたくない→生徒側のマイクはミュート
質問があるときは→廊下から教師を呼ぶ

Web会議を通して別室で授業参加

皆と同じように学習に取り組み、記事を書き上げられた。



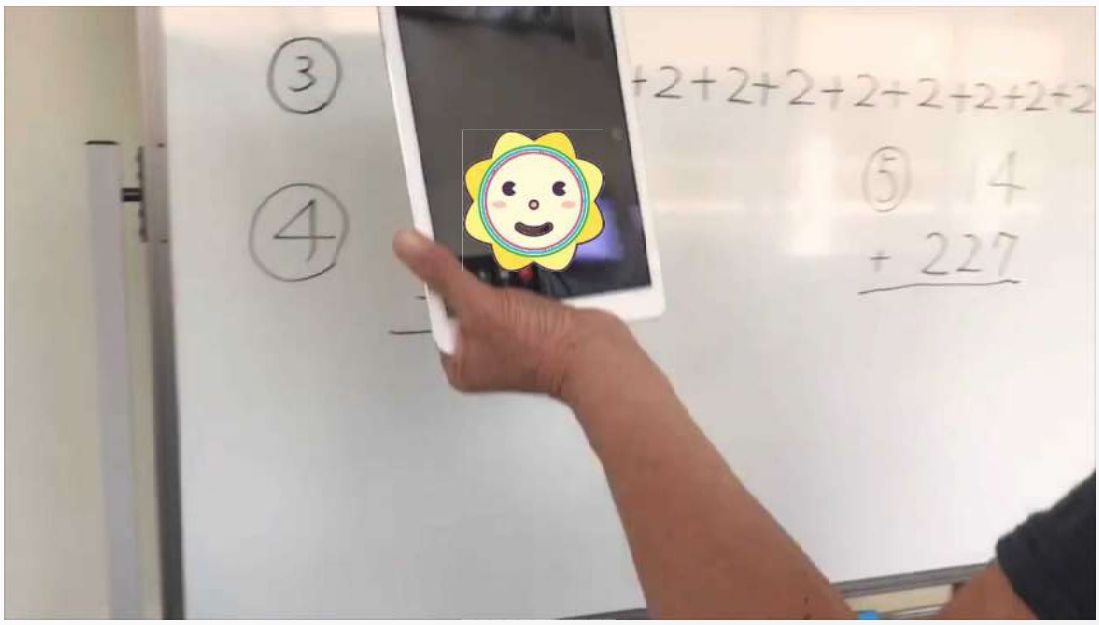
Web会議を通して別室で授業参加：その他

ぬかるみがあり、肢体不自由を有する生徒の農園参加が難しく、遠隔で農園に参加した。また、撮影者の教師を動かすことで遠隔操作での参加ができた。

Web会議を通して別室で授業参加

ぬかるみがあり、肢体不自由を有する生徒の農園参加が難しく、遠隔で農園に参加した。また、撮影者の教師を動かすことで遠隔操作での参加ができた。
別の活動では教師を動かす際に、「こう言えばいい」など、生徒同士のやり取りも生まれた。

Web会議を通して家庭で授業参加：他学部でも



歯磨きの定着を図る

生徒の課題
・食後の歯磨きが定着していい。
・タイマーであると同じ場所を磨き続ける。

⇩

目標
・食後の歯磨き習慣をつける。
・磨く場所を自分で変更する。

歯磨きの定着を図る

目標
・食後の歯磨き習慣をつける。
・磨く場所を自分で変更する。

＜健康の保持＞
・食後に歯磨きをする習慣がない。
＜身体の動き＞
・歯を磨く基本的な動作が身についていない。
・動作の持続が難しい。
＜環境の把握＞
・前歯、奥歯などの場所の確認ができない。

歯磨きの定着を図る

パワーポイントの動画書き出し機能で手順を動画化

歯磨きの定着を図る

時間をかけて磨けるようになり

歯磨きの定着を図る

音楽だけで磨けるように

歯磨きの定着を図る

生徒の目標や願い
・食後の歯磨き習慣をつける。
・磨く場所を自分で変更する。

⇩

・歯磨きが定着。現在は鼻歌を歌いながら動画無しでできている。

⇩

新しい目標
・奥歯の裏や歯間など細部を意識することが目標。

動画教材の活用

同じ歯磨き動画を小学部でも活用。教室配置や実態から、時間が長かったり、手順を変えたいという声をいただいた。

⇩

ショートバージョンの作成。
・自作の動画なので、ニーズにあった細かなカスタマイズが可能。

動画教材の活用

自立活動：YouTuberになろう（コミュニケーション時間の指導）

生徒の実態や課題
・中学部１年生。教師とは積極的にコミュニケーションを取ることができる。生徒同士であるとうまく気持ちを伝えられなかったり、かしこまった場面ではふざけてしまうことがある。

⇩

目標
・集団活動や発表の際、自身を持って自分の気持を表現できる。

自立活動：YouTuberになろう

目標
・集団活動や発表の際、自身を持って自分の気持を表現できる。

＜心理的な安定＞
・不安や苦手さから、ごまかしたり、場から離れたりしてしまう。
＜人間関係の形成＞
・TPOに応じた言動のルールがわからない。
＜コミュニケーション＞
・具体的な表現方法がわからない。

自立活動：YouTuberになろう

・本学習集団は、家庭での余暇でよくYouTubeを見ているため、どのような振る舞いをすればよいか、どういった言動が楽しいかの見通しは十分に持てている。
・YouTuberの動画を模倣することで、生徒たちに必要な表現方法や自信が自然と生まれるのではないかと仮定した。
・動画作成には、グループ名、YouTuberネーム、動画の企画、セリフ、BGMや効果音など自分たちで議論しながら決めるべき題材が多く、自然と生徒同士のコミュニケーションが生まれた。
・作成した動画を見返すことで、自分や友達の良いところや改善点に気づくことができる。

自立活動：YouTuberになろう

・初めはふざけながら行っていた撮影も、自分の姿を見ることでどうすればよく見えるかを自分たちで考えたり、表現の工夫をすることができた。
・他の授業で自身が持てず、発表を躊躇していた場面でも「YouTuberの時みたいに言えばいいんじゃない？」と伝えると、普段よりはっきりとした声で発表ができた。
・iPadの操作や画角の工夫等、自分たちで工夫することが増えた。
・大きく体を使って表現したり、失敗した友達に「どんまい」と声をかけたり自信や友達を気遣う様子が見られた。

YouTube
の活用 with 支援部

YouTubeの活用：事前学習

生徒の課題
・校外学習において、初めて行く場所で不安がある。特にローラー滑り台は静止画やスライドでは雰囲気が伝わりづらい。
・事前学習の内容や、実際に体験した後に家庭での話題づくりのきっかけになってほしい（教師の願い）

⇩

目標
・安心して活動を楽しみたい。

YouTubeの活用：事前学習

生徒の目標や願い
・安心して活動を楽しみたい。

⇩

＜心理的な安定＞
・スライダーはどんな体験で、どれくらいの距離があるかわからない。
・自分の体がどのように動くか不安である。
＜身体の動き＞
・ダンボールを使っての滑り方がわからない。

YouTubeの活用：事前学習

YouTubeの活用：事前学習

生徒の目標や願い
・安心して活動を楽しみたい。

⇩

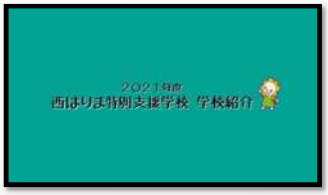
・自分で階段を登れる生徒は全員滑り台を滑ることができた。
・動画の中にあった「何秒で滑りきれるか」という勝負を数名の生徒同士が楽しんでいた。
・家庭からも、「一緒に動画見ました。」等の声。
・21人に対して50再生でした。

YouTubeの活用：その他

歯磨き動画の家庭での活用

共通の話題として
「給食動画」

不安軽減として
「教室の360度動画」



地域連携として

自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 研究発表会 研究指定校からの報告

令和3年11月8日（月）

県立神戸聴覚特別支援学校

1

①対象児童生徒の実態

生徒	学年	聴力 (dB HL)	補聴機器	コミュニケーション
A	中学3年	右：(115.0) 左：(115.0)	右：人工内耳 左：人工内耳 ロジャー使用	発音は明瞭。口話での会話が可能。 聞き取れないことへの不安が強い。
B	中学3年	右：40.0 左：40.0	右：補聴器 左：補聴器 ロジャー使用	発音は明瞭。口話での会話が可能。 語彙が豊富で類推能力が高い。
C	中学1年	右：46.3 左：50.0	右：補聴器 左：補聴器 ロジャー使用	発音は明瞭。口話での会話が可能。 聞き誤りに対する自覚が薄い。
D	中学1年	右：(108.8) 左：96.3	右：人工内耳 左：補聴器 ロジャー使用	発音はやや不明瞭であるが、口話での会話が可能。 聞き誤りがある。

2

②自立活動の目標

オンライン交流により、仲間づくりをする。
オンライン時に自分に必要な配慮を知り、周囲に求められるようになる。

③ICT機器の機能

本校は、ノートパソコン（字幕提示のため容量の大きいものを使用）。
通級生は、各校で配布されているタブレット。

④取組内容

難聴生徒は機器を通した聞き取りが苦手であるが、発言内容を字幕で確認することができるため、安心してオンライン交流に参加することができていた。

⑤評価について

意欲的積極的にオンラインによる活動に参加するために、自分に必要な配慮を周囲に伝えることができるようになる。

3

自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 研究発表会 研究指定校からの報告

令和3年11月8日（月）

県立姫路しらさぎ特別支援学校

1

①対象児童生徒の実態

（高等部１年生は、３２名の生徒を発達段階別に４グループに分けて「自立活動の時間における指導」を実施。）

対象生徒：高等部１年 ９名（S-M社会生活能力検査：7歳～13歳）

＜共通する課題＞

・自分の思いや考えを言葉で相手に伝えるのが苦手。
・他者の意図を推測したり、指示内容の意味理解をするのが苦手。
・予定変更や新規場面に直面すると、困惑したり緊張して固まったりする。
・様々なICT機器の使用経験はあるが、遠隔システムによる同時双方向型のやり取りを行うためのスキルは未習得。

＜環境＞

新型コロナウィルス感染拡大に伴う休校時や再開後も、遠隔システムによる同時双方向型のやり取りはほぼ経験していない。

2

②自立活動の目標（グループ目標）

1) 自分の思いや考えを人に伝わるように話す。
2) 人の話を聞いて、考えや意図を理解する。
3) 見通しを持って新しいことに取り組む。
4) ICT機器を活用してコミュニケーションスキルを高める。

③ICT機器の機能

県より個々のアカウントが配布されているので、Google Classroom と Meet を活用。PC・iPad・BIGPADを使用。

④取組内容

２つの教室を使って遠隔双方向型により【問題解決試行】や【クイズ大会】等の活動を行った。機器の活用方法やコミュニケーション上の留意点を指導。

⑤評価について

【表出】【受容】【積極性】【ICT機器活用力】の４つの評価尺度を作成し、担当教師（３名）が得点化して、一致率をはかる。指導の事前事後で評価。

3

5

＜出題グループ＞

＜解答グループ＞

授業参観

（テレビ会議システムでのライブ中継を予定）

「視線入力支援装置を活用した自立活動の取組」

報　告

「児童生徒の実態に応じた ICT を活用した自立活動の取組事例」

研究討議

テーマ「ICT を効果的に活用した自立活動に取組むための児童生徒の実態把握について」